

武蔵野プレイス見学会(ヒアリング)記録

1 見学会(ヒアリング)実施概要

実施日	出席委員
令和3年6月3日(木)	朝岡委員長、市川委員
令和3年6月14日(月)	森副委員長、見城委員、千種委員、町田委員

※武蔵野プレイス職員(渡邊委員)のご案内による見学の後、他職員を含めヒアリング

2 ヒアリング結果概要(◆は出席委員の意見)

① 団体登録の状況について

- ◇ 登録数はピーク時 300 団体を超えていたが、コロナや高齢化の影響もあり、令和3年度時点では 216 団体。登録の有効期限を迎えた段階で、更新するか否か各団体で判断するため、とりあえず登録していた団体がやはり不要と判断して離れる例がみられる。
- ◇ 登録の目的としては、ラウンジ、掲示板、印刷機の使用等、ハードの利用希望が多い。
- ◇ 登録の経緯としては、「人づてに聞いて知った」「コミセンで聞いた」などのほか、市からつないだ例もある。一方で、団体の登録に向けて、施設側から周知・発信に取り組む姿勢はやや不足していた可能性もある。

② コーディネート機能の状況について

- ◇ 市民と団体を、または団体間を結びつける「コーディネーター」については、役職としてそういった存在がある訳ではない。現場のカウンターへの配置人数は6名。コーディネートの部分に重点を置きたいが、話をゆっくり聞くことができない状態。カウンター業務としては市民活動支援より施設利用の方の対応が多い。本当はラウンジ利用者などに声掛けする時間を作りたい。
- ◆ 「市民が気軽に訪れ、市民活動に触れるきっかけがある」場とするため、3階の市民活動エリアを、活動していない人にとっても入りやすい環境にする工夫が必要。そのためには情報の掲示位置等への配慮も必要。また、コーディネートを担う職員について人物紹介等の掲示を行い、話をするきっかけを創出することも一案である。
- ◆ 「つながりなさい」という方向性での取り組みではなく、「自然とつながっていた」という場の創出が望ましい。
- ◇ 若年層については、複数の大学の学生とのつながり・協働実績があるが、共に活動することを「願ひする」スタンスとなってしまっている。学生団体の登録自体は一定程度ある。
- ◇ コーディネートと言われるが、何を指すか明確でない面が大きい。つなぐ力が大きいのかなとは思ふ。場数を踏んで、経験しないと育たない。研修などを受けたからと言っ

てすぐにできるようになるものではない。コーディネートについてじっくり考えることが必要。

③ コロナ禍を踏まえた観点について

- ◆ コロナ禍ということも踏まえ、施設のあり方に大きな見直しが必要かどうか。立派な建物であることもあり、これまではプレイスに「来てもらう」前提の「提供する 10 年」だったと感じている。今後デジタル化が一層加速し、「人とのつながり方」は転換する。例えば講座等の実施に際しても、講師の所在地による制限がなくなる。
- ◇ デジタル化への対応の点では、リアルの場合とオンラインとの「ハイブリッド」での開催等、昨年からいち早く取り組んでいるが、接続環境等ハード面での整備が追い付いていない。
- ◇ 過去に定員に達さなかった企画がオンライン開催時は定員越えとなるなど、まさにつながり方の変化を感じるところであり、一度振り返っての検証が必要かと感じる。
- ◇ コロナ禍において、対面しなくてもできる支援事業を模索している。

④ 中間支援・活動開始時の支援について

- ◇ マネジメント講座を年 4～5 回、外部講師を呼んで開催している。受講できなかった人の問い合わせについては、専門家の紹介や、図書館にある本の紹介等で支援につなげている。
- ◇ 活動を立ち上げたい・何かやりたいという個人への支援としては、話を聞いて、情報コーナーにある団体の紹介を行うことはある。ヒアリング・個別相談もラウンジで行っている。コロナ禍で相談件数は減った。感触としては 60 代以上の男性が多い。
- ◆ NPO を立ち上げたいとき、どういう形でプレイスに相談したらいいかわからない。
- ◇ ある程度仲間を集めてから相談に来る人、やりたいことがあって（個人で）相談に来る人など様々だが、プレイスで把握している先生の所属先などの紹介などはしている。
- ◇ 啓発に力を入れて、これから市民活動を始める人も含めて惹きつけていきたい。

⑤ 全市的な体制(機能分散、配置の問題、連携等)について

- ◇ 立地上、市内東部の人に来づらいつとの声はある。プレイスの認知度も低いかもしれない。利用団体の本拠地も、感覚的には西側が多いかという印象。
- ◆ 今ある機能を中央図書館や吉祥寺図書館などに分散させて来やすくさせる等も一案か。
- ◆ これからの市民活動支援として、ボラセン・プレイス等でそれぞれがやっていることを、垣根を超えてどうつなげていくか。東西に長い武蔵野にどう横串をさしてつなげていくか。
- ◇ 市民活動の情報の集約・広報を通して市全体で市民活動関連のつながりを醸成していく観点では、プレイスがハブになればいいと思うが、なかなか難しい。
- ◇ 連携に関して、社協とプレイスも何かしら始めたいということで、共同で事業を広報しようと数年前から市民活動推進月間を始めたが、互いに軸になれずもどかしい思いが

あった。

⑥そのほかについて

- ◇ ここにすれば相談できるという「守り」は必要。相談件数がないから「攻め」に転じる、というのは少し違うかもしれない。これまで積み上がった数値等から、何が求められているのか改めて分析すべき。

- ◆ 市民活動推進課で NPO 団体に補助金を出しているが、申請件数が少ない。プレイスでも助成金制度があるが、タイムラグがある。両方で受けやすい流れを作れるとよい。
- ◇ プレイスの制度は 5 万円・3 組で、新しくできた団体が優先。プレイスで落選した人を、NPO 補助金の方につなげられれば市民活動の支援が広がっていく。

- ◇ 別フロアの青少年専用スペースの利用者について、コロナ前だと、何かしら家族関係の問題等を抱えての相談は年 3～4 件程度あった。必要に応じ、市にも相談しつつ、関係部署につなぐようなこともある。つなぐことを嫌がる子もいるので対応は難しい。